西照

西照寺寺報「さいしょう」 第44号
2023年8月1日
発行　浄土真宗本願寺派　西照寺
高岡市吉久２丁目４－40
郵便振替口座　00780-8-8185 西照寺
西照寺WEB　http://nisitera.eek.jp

祠堂永代経 勤修

左記のとおり今年度の祠堂永代経をお勤めいたします
お参りくださいませ

おつとめの時間

八月 二十七日（日）午後二時～
二十八日（月）午前九時半～

布教使　麻生 尚子 師　高岡市伏木 浄光寺衆徒

※お参りの折は、マスク着用をおねがいします。

西谷山 西照寺

この仏事は、ご先祖を大切にしのぶ皆様の御懇志によって営まれています。
西照寺郵便振替口座などご利用頂ければ幸甚です。

仏教儀式のはじまり

釈尊在世の当時、弟子や信者は、悩みや不安・問題があれば、直接お釈迦様にお聞きすることができました。ところが、娑婆の世界を終えて涅槃（入滅）に帰られたので非常に困ったわけです。

お釈迦様の説法は、「対機説法」と言いまして、相手の悩みに応じて直接相手に答えられています。ですから、文字に書いてあるということがありません。そこで、弟子達が集まって「結集」という集会を何回も開催します。お釈迦様の説法を最もよく聞いた「多聞第一」といわれる阿難尊者を中心に、私はお釈迦様からこのような説法を聞いたと発表します。集まった弟子達が私もそのように聞いたと賛同してくれる説法を文字に表し、お経が編纂されていきます。

また、お釈迦様はまだ娑婆世界におられて、迷える私のために説法してくださっている。そのことをどう再現していくかということで、仏教の儀式がはじまっていったのではないかと思われます。

仏事をいとなむ

仏事とは、仏さまのお仕事（はたらき）という意味です。法事ということも、お互いが仏法のお仕事、たはらきに出遇っていくということです。

亡き方を偲び年忌法事などでお経を拝読しますが、これは私の苦悩に応じて、具体的にお釈迦様や阿弥陀様が説法してくださっている、ということを儀式として再現しているのではないでしょうか。

それには基本的な流れがあります。

先ず、「奉請」（おいでくださいと請い奉る）や「伽陀」（詩や歌句からなる経文）などを声明（お経に節をつけた声楽）として唱えます。これはご招待にあたる経文です。「どうか、阿弥陀様、お釈迦様、諸仏(他の仏の方々)、この場にお越しくださいませ」です。

次に「表白」を言います。これは何故お招きしたのか、ここで何をお願いしたいのか、その理由の説明です。「昨年、子供を亡くし家族一同未だに悲しみが絶えません。そのことをどのように受け止め、何をよりどころとして生きていけば良いのでしょうか」、「自分の死を引き受けていくことができません」など、こちらの悩みを、相談事を打ち明けるわけです。

そうして、これを受けて

次に仏様の説法がはじまります。具体的には釈尊の説法です。

日本には六世紀頃に中国や朝鮮を通して多くの経典が日本に入ってきました。中国語に翻訳された経文です。漢字ですので呉音といわれる音読みをします。現代の日本の漢字は殆ど呉音で音読みするようです。その後、漢音で音読みする経典、唐音で音読みする経典なども入ってきます。漢字には音訓がありまして、例えば「明」という漢字は、呉音では「ミョウ」、漢音では「メイ」、唐音では「ミン」と音読みします。訓読みすると「あか(るい)」となります。同じお経でも、呉音で読んだり漢音の読んだりすることがあります。正式な経典は、その時代に入ってきた古い漢字を使っています。また、鼻音や促音などのような「伝承音」と言われる、その当時の発音の仕方のルールを忠実に守って唱えています。

お経を呉音で音読みしますから、聞いている人は意味がよく分からないのではないかと思います。今日では、日本語に現代語訳したお経もありますから、その方が分かりやすい気もしますが、敢えて日本に最初に伝わった形の経典の形態を再現している。

これは、私の勝手な解釈を加えず日本の私に伝わった原初の形を通して、釈尊の説法を忠実に再現して、いただいているということをあらわしているように思います。

浄土真宗の場合は、浄土三部経(仏説無量寿経・仏説観無量寿経・仏説阿弥陀経)を拝読します。これらのお経は、阿弥陀如来のはたらき(念仏)の中にこそ、全ての人が救われていく道があるとお釈迦様が説いてくださった経典です。

こうしてお釈迦様の説法が終わると、

次に「讃」とか「成就」という経文を唱えます。これは阿弥陀如来のすばらしさを讃嘆し、私の救われていく道の成就を、感激を込めて表明する箇所です。

そして、最後に「回向」を唱えます。

『願以此功徳　平等施一切　同発菩提心　往生安楽国』、書き下しますと、「願はくはこの功徳をもって、平等に一切に施し、同じく菩提心を発して、安楽国に往生せん」となります。

これは、今賜ったみ教えは、私一人の心に止めるのではなくて、皆と分かち合って、共々に全ての人が救われる阿弥陀仏の浄土を願って歩んでいきます。という決意表明にあたるものであると思います。

(裏面に続く)

（中面からの続き）

祠堂永代経（しどうえいたいきょう）

祠（しどう）堂とは、先祖をまつる祠(ほこら)という意味で、かつてはお寺の本堂の別称とされて来ました。また、永代経とは、永代にお経が拝読されるという意味です。

ですから、祠堂永代経とは、お寺（西照寺）にご縁のある亡き方々の追悼のお経が永遠に上げられ、子や孫が代々にわたって仏法を聞き慶ぶようにという願いが込められた仏事です。

皆様には、故人をしのびつつ、私のいのちの問題を阿弥陀様のみ教えに、聞き開く機縁を結んでお参りいただければ、大変有難いことで御座います。　合掌

（文責、前住職）

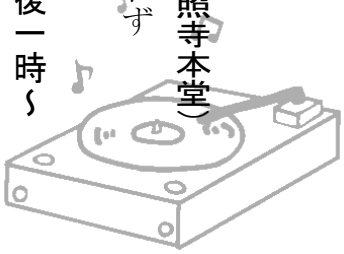
◇西照寺の寺院活動紹介

・本堂レコードコンサート（場所　西照寺本堂）

古いレコード盤など、ジャンルを問わず各々持ち寄り鑑賞する会です。

基本毎月第一・第三土曜日　午後一時～

参加費三百円（光熱費に対する協力金）



西照寺ライブ

９月９日(土) 18:00～19:00

場所　西照寺本堂

お一人　千円

Tsuyoshi Trio　金沢のジャンゴ・ラインハルトこと Tsuyoshi が北陸屈指の実力派メンバーを引き連れてマヌーシュの調べをスウィングする。

♪♪さあ♪♪みんなで歌おう

仏教讃歌

基本　毎月第1水曜日（13時～）

場所　西照寺本堂

ピアノ 指導　西田利代美　先生

参加費　三百円

（光熱費等々）

詳しくは、新住職 吉井基正（もとまさ）080－9782－0705 までお尋ねください。